

令和7年度

新野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○一人ひとりの子どもを見取り、個にあった支援の工夫
○言語活動や体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。

校長

大和 利弥

学力向上推進員

森下 淳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●姿勢を正し、人の話を集中して最後まで聞くことが苦手な児童がいる。 ●語彙が乏しく、自分の考えを適切に表現したり、他の人の話を理解したりすることが難しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が定着し、他の学習の場面で活用することができる。 ・正しい学習習慣を身に付け、学習に取り組むことができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友達の話の話を正しく聞き取ったりすることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・朝の活動(花まるタイム)や家庭学習などを利用し、読み書き計算等の反復学習に取り組む時間を確保する。また、読解力の基礎となる読書習慣を身につけさせる。	・スモールステップで課題を解決できるような反復学習を取り入れる。 ・朝の活動等を利用して、読書に親しんだり辞書を活用したりして語彙を増やしていく。	・授業の始めや隙間時間を利用して小テストやドリルパークに取り組んだことで、基礎的な知識を身につけた児童が多い。 ・読書や新聞に親しむ機会を適宜設けたことで言葉に対する関心が高まった。	・Aドリルなどを活用することで個々の実態に応じた取り組みや基礎基本の定着を図る。 ・読書や新聞に親しむため、発達段階に応じたはたらきかけや表現活動を行う。 ・語彙を増やすため、辞書を引くことに関心を持たせるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○経験したことや考えたことなどを、作文や日記に書き表すことができる。 ●自分の思いや考えを自分の言葉で分かりやすく伝えることが苦手である。 ●どう表現したらよいか自信が持てず発表を控える児童がいる。	・語彙を増やし、自分が伝えたい内容に合う言葉を選んで表現できる。 ・自分の考えと同じところや違うところを見つけながら意見を聞くことができる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・実態に応じたためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。(テーマ日記・行事作文・学級会・学年発表・学習発表会)	・スピーチや日記でテーマに沿った表現ができるような機会を増やす。 ・理由をつけて書いたり話したりする習慣を身につける。	・テーマに沿ったスピーチや日記での表現活動を継続したことで、自分の思いや考えを伝えようという意欲が高まってきている。 ・国語科の学習では、初発や事後の感想、お話作りなどの書く活動に重点を置いたことで、書く力をつけ始めてきている。 ・文書作成ソフトを利用したことで手直しや推敲がしやすく、発表までの活動がスムーズに進んだ。	・ホワイトボードやタブレットを話し合いの時に有効に使えるようにして、対話を生かした学習活動の展開を図る。 ・友達の発表を自分の考えと比べながら聴いたりよさをまねしたりするなど聞き方の工夫について指導する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる児童が多い。 ●与えられた課題以外や不得意な学習内容に対して、粘り強く取り組めず、あきらめてしまう児童がいる。	・課題解決に向けていろいろな方法を試しながら自分の力で粘り強く考えることができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を解決するために苦手なことにも取り組むことができる。	・児童の主体的な体験や活動(タブレットの活用など)を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・児童の気づきや考えを大切に授業展開を工夫する。 ・家庭との協力を密にし、自主学習の計画的でよりよい取り組み方の定着化を図る。	・見直しをもって学習に取り組めるよう、めあてとまとめを意識した授業展開を工夫する。 ・自主学習を計画的に進められるよう、ゴールを設定するなどして自分で目標を立てさせるようにする。	・めあての設定から振り返りまでを一連の流れとして各教科で取り入れたことにより、目的意識を持って活動したり次の学びの意欲へとつながったりした。 ・ドリルパークや自主学習を計画的に進めたことで、自分の苦手とする内容と向き合おうとする姿が少しずつ見られるようになってきた。	・家庭学習チャレンジや自主学習ノートの活用の仕方を工夫する。 ・学習に対する主体性を高めたり達成感を味わったりすることのできる学習計画作りや授業作りに取り組む。